



1986年(昭和61年)
6月号(No. 492)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価一部 150円

目次

昭和61年度通常総会	(1)
海外の山	(2)
「サポートの程度」	
図書紹介	(4)
「辻村太郎著作集」二冊の自然保護の本	
尾瀬ヶ原をのこした記録	
中沢真二	(4)
大正はじめの登山	
伴野 清	(5)
門田正氏への見舞いのお願い	(5)
東西南北	(6)
「スイスの岳友への感謝」他	
報告	(6)
「岐阜支部 15周年記念登山」他	
会務報告・ルーム日誌・会員移動	(9)~(11)
昭和61年度除籍対象者名簿	(9)
昭和60年度収支決算書	(11)
昭和61年度予算案(案)	(13)
昭和60年度事業報告	(13)
昭和61年度事業計画(案)	(15)
カット/牧 潤一	

▶日本山岳会事務取扱時間

月、火、木、土曜 10時~20時
水、金曜 13時~20時
日曜・祭日は休み

▶図書室開室時間

日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時~20時

(社) 日本山岳会

昭和六十一年度通常総会

— 十一年ぶり、会費値上げを承認 —

新監事に山本健一郎氏

昭和六十一年度の本会の通常総会は、さる五月十六日(金)、午後六時より、番町グリーンパレス(東京都千代田区二番町二)において開催された。

この総会では昭和六十一年の事業報告並びに収支決算、昭和六十一年度の事業計画及び予算案などが承認されるとともに、本年度とくに重要なことは定款の一部が変更され、十一年ぶりに会費の値上げが認められたことである。

なお、総会議事終了後は、隣室において盛大な懇親会が開催されたことは例年の通りである。

以下は総会と懇親会の内容の概要である。

総会の司会は総務担当の嶋原啓

佑常務理事。まず、総会に先だって今西寿雄会長の挨拶(別掲)のあと議事に入った。

定款二十九条に基づいて議長に今西会長が指名されるとともに事務局より、現在の会員総数四一九名のうち委任状による出席会員一六九五名、出席会員一三七名、合計出席者数は一八三二名であり、定款三十三条に規定された在籍会員の三分の一以上の定数を満たすものとして本総会の成立を宣言。なお、本日の議事録の署名人は松田雄一、坂本正智両会員を指名、了承された。

次いで事務局より配布資料にもとづいて若干の会務報告が行なわれたあと、昨年度に物故された三

十六名の会員の名前が読み上げられたのち、一分間の黙祷が捧げられた。

物故会員氏名(敬称略)

栗飯原健三 宮井英明 坂口圭

正 鈴木静雄 金光正

次 桂重英 青井竹三

郎 養父孝太郎 下山

隆巳 高波隆男 伊藤

洋平 田淵邦彦 池上

和夫 原喜彬 塩田良

仲 村嶋雅博 山崎克

田村豊三郎 佐藤淑男

斎藤音蔵 寺島昭一

田崎市松 林幹夫 平

井忠平衛 岡田市三郎

荻野和男 高野喜七

福井正吉 増田甲子七

山田恵三 青木英治

石渡清 岩間升 交野

武一 萩千賀 高橋照

第一号議案は昭和六十一年度事業報告および収支決算、財産目録の件であ

るが、前者は高遠担当理事、後者は橋本担当理事が海外出張のため西村会員(財務委員)が代理で配布資料(別掲)にもとづいてそれぞれ説明した。それによれば事業



通常総会々場風景/撮影・松家晋

お知らせ電話
234 六六五九

報告は例年通り各種の講習会、集会、研究会が行なわれたほか、とくに昨年度の特色は、本会創立八十周年に当り、記念式典、晩餐会や各種展覧会が東京で行なわれたほか、全国七ブロックで記念講演会、山行、晩餐会などが盛大に行なわれたことである。

収支決算と財産目録については、昭和六十年度は三六四万円の赤字予算で編成されて発足したが、結論的には三万九千円ほどの赤字にとどまり収支はほとんどで終った。これは収入が二一三万円ほど予想より多く、逆に支出の方は予算より一六六万円ほど少なかった結果である。なお、昨年度で特長的なものは八十周年記念事業に関する収支であるが、前後二回にわたって募金が行なわれ延一七七名、二一五七万円(利子等を含む)の応募があり、それに対して支出は九三八・七万円であったため、差引約一二八万円が登山特別基金として積立てられた。これについて竹田寛次監事より、以上を適正妥当なものと認める旨の監査結果が報告され、第一号議案は拍手をもって承認された。

第二号議案は六十一年度事業計画と収支予算案であるが、これについても、高遠、西村両氏によつてそれぞれ配布資料(別掲)にも

とづいて説明がなされた。それによれば昨年度同様の種々の行事が予定されているが、本年度の事業計画の特長は、中国崑崙山脈の登山、ポーランド並びにアメリカ両国山岳会との交流登山、そしてマナスル登頂三十周年記念登山などの計画である。続いての予算案は以上の事業計画の裏づけとしてのものであるが、その要点は六十一年度は会費は六十年と同じため、収支はほぼ前年並みかむしろ減額が予想されるのに対し、逆に支出の方は、印刷製本代は減るものの(名簿がないため)、パソコンリース代、支部・海外関係費が増加することが見込まれるため、本年度予算としては次の議案とも関連するが、収支六一五・五万円の赤字予算となっている。

以上の説明に対しても全員異議なく、拍手のうちに承認された。次の第三号議案は昭和六十一年度監事選任の件であるが、これは竹田監事の任期満了に伴い後任候補者として一ツ橋大学OBの山本健一郎氏を推すもので、金坂一郎氏の再任と合わせてこれも事務局提案通り異議なく承認された。

第四号議案は定款の一部変更の件で、本総会案件中最も重要なものであって、予め会員全員に総会開催通知とともにその内容は明らかにされている。それによると①会費値上げ②監事任期の延長③定款変更の実施時期と会費値上げ実

施時期の確認ということになっている。これについても担当理事の高遠氏が説明に当たった。

その内容を要約すると、①については昭和五十年より十一年間にわたり据置かれていたが、その間、諸物価は高騰し約五十数%の値上りを見せている。それにもかかわらず会費を据置いてきたことは会員数の増加による収入増とチームの購入による家賃支出の減によってカバーされてきたが、先ほどの予算書でも説明があった通り、本年度は単年度としても大幅な赤字が予想される。従って来年度以降はある程度の会費値上げが必要となる。その検討過程で問題になったことは東京近郊在住の会員と地方支部会員との会費の差であるが、監督官庁である文部省の行政指導により「全面一律」が打ち出されたが、これについては支部長会議、理事会、評議員会等で検討した結果、一気に一律にするのは問題があるので、今回はここに提案した通り東京近郊在住者一〇、〇〇〇円、地方在住者九、〇〇〇円として多少差をつけた。なお、終身会費も二十八万円(十年以上、十八万円(二十年以上、十二万円(三十年以上)とする。

以上、会費値上げに伴う年間会費収入の増加分は七八〇万円と見込まれるが、これは支部活動の活性化(三〇〇万円)その他海外交流登山、行事案内等のサービスの

海外の山

サポートの程度

地球の頂上、北極点をめざすさまざまな試みと成果が、こどもも話題をにぎわしている。前後してゴールした七八年の日大隊と植村直己、北緯八八度四〇分まで行って断念した昨年の和泉雅子隊、「単独徒歩」の「本番」への足ならしとしてことし北磁極を徒歩で単独往復した大場満郎など日本人とも結構なじみの深くなった北極海上の一点。北の究極の不思議な魅力が人々をとらえている。

二つの成功がとりわけ注目された。まず、アメリカの大ぞりインストラクター、ウィル・シュレーガー(四一歳)を隊長とする六人のチームの「無補給到達」である。三十歳の教師、アン・バンクロフトが女性初の北極点到達をなしとげたことが、朗報に彩りを添えた。

もう一つは、フランス人医師であり登山家である、ジャン・ルイ・エチエンヌ(三九歳)の単独徒歩(実際はスキーを使ったが)到達である。途中、飛行機による補給を六回受けたが、三月九日カナダ最北端の小島、ワードハント島を出発してから五月十一日、北極点にゴールするまでエチエンヌは終始自分の筋力で七百五十*の海氷上の旅を乗り切った。

双方とも、気力、体力をふりしぼっての快挙だった。とりわけ「途中で補給をいっさい受けなかった」六人の男女の行動に称讃の声が集まったらしい。

ただ、海外から伝えられた情報でわからない点

があった。この隊は初め八人でスタートしたのに、途中で二人が凍傷やケガで断念、犬もゴールした時は当初の半数以下の二十一頭に減っていた、というのである。

断念した二人の人間と極点にたどり着かなかった犬たちはどうなったのだろうか。やはり自力で引き返したのか、とも思われたが報道はその点については触れていない。

双方の隊が基地としたレゾリュートにまたまあいあわせた日大山岳部のOBで北極クラブの中心メンバー、五月女次男の報告が、素朴なこの疑問を解決してくれた。

八人は三月六日、同じくワードハント島を四十九頭の犬と五台のそりで出発したが、その後人間と犬のピックアップのため三回、飛行機の援助を受けているのである。四月二日打撲で負傷したニュージランド人と七頭の犬を、四月十一日には二十一頭の犬を、四月十六日には足に凍傷を負ったアメリカ人を、それぞれツインオッター機が氷上から運び去った。

だからと言って六人の成功に敬意を表する気持ちに変わりはないが、伝えられたように「ペアリー以来七十九年ぶりの快挙」というのとは一味違うように思う。

補給をどうするか、は極地での行動の生命線だ。一九〇九年、初めて北極点到達をなしとげたアメリカのロバート・ピアリーは探検船「ルーズベルト号」の支援を受け、出発当初は四十六人のエスキモーと二百四十六頭の犬を擁していた。四つの支援隊を前後して先発させ、最後の行程で満を持していた本隊が極点につくったのである。生きて帰るのに補給は必要だ。問題はむしろこれほど「自力」の部分の拡大し、かつ正直になれるかどうか。

(江本嘉伸)

向上、図書館、各種委員会活動の充実や今後予想される百周年記念事業への準備等に当たって。

次の②については他の役員が二年の任期となっているので、出来るだけ揃えたいという主旨であり、③の定款変更実施時期については文部大臣の認可のあった日とする。ただし、改正後の第六条の会費については六十二年四月一日から実施することにした。

以上が定款変更の理由説明であった。これに対し、会員より若干の質問があったが、最後に議長より挙手による賛否の採決が計られ、賛成が三分二以上と認められ本案件も承認された。

第五号議案は細則の一部削除の件であるが、これも高遠理事によって説明されたが、それは会の事務運営の合理化の一環としてコンピュータを導入したことにより会費納入方法が本会口座に一本化されるため、細則十条、十一條が適用できなくなるためである。

これについても拍手のうちに承認されたので、今後会費の納入方法は支部経由ではなくなり、支部運営費補助については理事会で検討決定することになる。

最後の議案は昭和六十一年度の除籍対象者の名簿の発表であるが、これについては本年度は八八名の対象者があり、該当する者の紹介者や知人は本人に在籍するよう説得して欲しいとの要望とともに了承された。

議事終了は午後七時十分。そのあと事務局より、マナスルトレックキング並びにボーランド隊訪日の変更に伴う若干の会務報告があり、引き続き恒例の懇親会が、隣りの部屋で開催された。

懇親会の司会も鳴原啓佑常務理事で、まず、「本年はマナスル登頂三十周年を迎え、その時のサミッターであった今西さんが、いま会長としておられることは誠に意義深い」との開会の言葉に次いで、今西会長も「二年がかりではあるが、新しくチョモランマの事業が出てきたので、これを成功させるために、若い優秀なクライマーに期待をかけると共に、皆さんの一層のご支援を願う」との挨拶を行なった。そのうち、女性名誉会員である中村テルさんが「JACの発展といつまでも若々しくあることを祈って」と元氣とユーモア溢る乾杯の音頭をとられ、なごやかな雰囲気のまま懇談となった。終了は午後八時三十分。

出席者・順不同 山本朋三郎 竹田寛次 入谷浩右 柴田昌亮 山田二郎 今西寿雄 斎藤俊哉 武居台三 澤木由美子 佐藤善子 片岡博 尾上昇 谷口現吉 阿部和行 村上勝太郎 佐藤泰彦 中島正夫 蒲生明登 斎藤惇生 宮下秀樹 鈴木邦之 中村太郎 平井吉夫 関塚貞亨 藤井正彦 坂倉登喜子 滝澤ちよ子 梅野淑子

佐々保雄 西丸震哉 堀田典郷

大森薫雄 早川瑞璃子 武田満子

長嶋正浩 山本元 渡辺兵力 宇津力雄 望月達夫 清野務 藤井明 安彦六郎 斎藤健治 南川金一 小倉厚 小林太刀夫 山根蘭

小原勝郎 小原晴子 山本健一郎

宇田川允敏 神山良雄 吉武正子

的場大祐 宮本信一 國見利夫

大橋晋 堀田弥一 広羽清 坂本正智 高遠宏 野口秋人 平戸孝夫 大塚博美 庄司駒男 村井米子 鈴木利也 太田敬 中村テル

河野幾雄 細川沙多子 山本久子

宗實慶子 青木昇 岸田権二 魚本定良 西沢健一 松田雄一 岡田光行 西村政晃 若林啓之助

松井辰彌 石坂久忠 松丸秀夫

末松大助 鳴原啓佑 越智英夫

山口節子 大峰芳枝 織内信彦

森川洋佑 絹川祥夫 長谷川良典

高澤英雄 勝山康雄 内山城 横溝修一 野沢誠司 入澤都夫 織田沢美知子 岩佐邦彦 岩佐吉雄

島田興 三上智津子 平井拓雄

松本恒廣 石橋正美 松家晋 田村宏明 秋山光男 岡部みち子

中川武 太田晃介 大倉昌身 林桂子 大森久雄 勝田房治 森宏子 小倉薫子 宅間清子 仙士俊

一 遠藤京子 佐藤知恵子 新井陽一郎 小倉茂暉 松本正城 小川益男 川合周 滑志田隆 細井澄子 木名瀬亘 山本良三 尹官炳 長谷川恒男 岡田龍行 藤田礼子 沼倉寛二郎 計一三七名

(記録・小倉 厚)

〔今西寿雄会長挨拶〕

本日ここに昭和六十一年度の総会を開くに当りましてひとことご挨拶申し上げます。

会の現状は後ほど会務報告がございしますが、三月末会員数四一三九名、新入会員二〇二名、退会会員一四七名で昨年より五五名の増となっております。本年は京都支部が誕生いたしました合計二十一支部となっております。

この一年間は何と申しまして、日本山岳会創立八十周年の記念行事に終始したものと思えます。過年度から八十周年を記念して海外登山などが計画され、また募金活動が行なわれまして二、〇〇〇万円を越え約一、二〇〇万円の会の基金が追加されました。会員の皆様に厚くお礼申し上げる次第であります。

記念行事としましては、山岳記念品の展示や会員による絵画・写真展、記念ピッケルの作成など行なわれ、全てが順調に経過しましたことは会報「山」や機関誌「山岳」を通じてご承知の通りでございます。

六十周年の記念式典並びに祝賀晩餐会が秩父宮妃殿下ご臨席のもとに盛大にとり行なわれました。

妃殿下からは日本山岳会の名誉会員となられた故秩父宮殿下が、北アルプスやスイス・アルプスに登られた当時のことを想い起されて、山岳会八十周年のお祝いの言葉を頂きましたことは、この上もなく光栄なことでございます。

また、当日のトライヴィジョンは誠に好評でございました。そして全国の支部が七つのブロックに分かれて、日本山岳会八十周年をお祝いして、夫々集会がもたれたことも画期的なことでございます。

た。海外登山につきましては、昨年度のカンチエンジュンガ縦走に続きまして、中国のキレン山、カサイジモンカ、更に黄河源流のトレッキングなどが成功裡に行なわれました。

また、夫々の委員会において或いは二十一の各支部におきまして各種の集会や研究会、講習会、展覧会、或いは自然保護活動など、またアメリカ山岳会との交流登山などで活躍をいたしております。

次に山岳会の事務の合理化が行なわれ、その一端としてコンピュータを導入して名簿の整理、会費の請求などがスムーズに行なわれるようになりました。これは松田常任評議員が担当して、実施され

山をきれいにゴミは持ち帰ろう

ましたが、自宅にも同じコンピュ
ータを準備して、精力的にやっ
てもらったお蔭でありまして、この
機会に厚くお礼申し上げます。

なお、佐々会長時代のから会費
の値上げが問題となっておりまし
たが、支部長会議、評議員会を開
催いたしました、説明いたしてお
りますが、本総会にこの議案を提
出したしておりますので、他の議
案もふくめまして宜しくご審議い
ただきますようお願い致します。

なお、また、かねてから東海支
部から申し出があったのでありま
すが、四月半ばに中国登山協会の
史占春主席が来日され、日本山岳

会に対し日・中・ネ三国合同登山
会として一九八八年チョモランマ計
画に協力してほしいという依頼が
正式にございました。史占春主席
は「日本山岳会はこの計画を実施
する義務と責任がある」とまで強
く要望されました。このことは大
変光栄でもあります、この計画
に全力を挙げるべきであるという
ことで、先日の理事会並びに評議
員会において承認されましたの
で、早速準備にとりかからねばな
らないと考えている次第でありま
す。

このことをご報告申しあげて、
私のご挨拶いたします。

尾瀬ヶ原をのこした記録

中 沢 真 二

私は東京電灯在職中大正十二年
頃、武田久吉博士の紹介で尾瀬の
長瀬の平野長蔵氏の訪問を受け、
尾瀬に発電所を作らぬようにして
欲しいと依頼を受けた。それから
三十余年後の水力地点が乏しくな
った戦後、電力の需要が急増して
きた時の昭和二十六年、東電、福
島県、新潟県、の三者が三つ巴に
なつて、われこそ尾瀬に発電所を
建設しようということが新聞を賑
わした。一方、武田久吉博士のよ
うに毎年何度も行つて植物の研究
をされる方や、日本の風景を調査
する国立公園協会等の自然を尊重

する方は心配しながらも為す術も
なく建設されるのを心配しておら
れたが、実業界は苔やトンボのた
め発電所を作らないわけにはいか
ないと、学者、自然愛好者の意向
を無視していた。

私は多年発電所の計画建設をや
つていたので尾瀬に反対を押切つ
て発電所を建設する価値があるか
考えてみたいと思つた。

私は発電所建設のため十数年、
湯沢、小千谷、十日町、大割野等
豪雪地に屢々出張し雪の研究調査
をし、雨量等に興味を持ってい
た。そのため余談ながら二月に苗



図書 紹介

辻村太郎著作集

第一巻 火山と氷河

佐藤 久編集

JAC名誉会員でもあり、わ
が国地理学の泰斗、辻村太郎先
生が九十三年の偉大な生涯を了
えられてから、はやくも三年過
ぎた。

東大名誉教授、木内信蔵博士
を委員長とする、編集委員会が
昨一九八五年に設けられ、十一
月十五日第一巻「火山と氷河」
が平凡社より発行された。

不思議な縁で、柳田国男先
生のお宅で辻村先生に初めてお
目にかかった私は、それから種
々と火山の話、氷河の話を教え
ていただいた。ただ山が好きで
無学の者に対して、地図をひろ
げ、じゅんじゅんと説明して下
さる。果ては、火山弾や氷河の
石を、どこで拾ったと説明まで
つけて、送って下さった。

かつて、三十年前、日本自然

保護協会創立発起人会に列席し
たから、その方面のお話も重な
る。

いつか私も、目をかけていた
だく教え子の一人、の心地を抱
いた。

「辻村太郎著作集」刊行をす
める会にも、喜んで参加した
が、早くも第一巻が出て感銘を深
くした。

巻頭の、立山一ノ越付近の八十
歳のお写真(一九七〇年十一月)
をまず見る。ベレー帽に長コート
を無難に着こなし、一の越のご
ろごろ石を踏みながら、しきりに
岩屑を見て……アツここにあっ
た! と仰つしやうそうだ。

目次を上げると長くなるから略
すが、第二巻大地の活動、第三巻
海と山、第四巻景観の地理、第五
巻風土と文化、第六巻自然保護、
第七巻人と紀行と続く。

編集も、佐藤先生が第一、第二

巻の後、戸谷洋、西川治、田辺
健一、前島郁雄、木内信義と、
高弟がたである。

日本山岳会の会員として名を
列ねるわたくし達の、見逃すこ
との出来ない書と言えよう。

一九八五年十一月十五日、平
凡社刊、四六版、四一九ペー
ジ、四八〇〇円 (村井米子)

二冊の自然保護の本

『尾瀬』(斎藤晋著、昭和六十
年上毛新聞社刊)

生態学者の立場から尾瀬の全
貌を多角的にとりあげている。
数ある尾瀬に関する本のなかで
も異色のもの、自然保護のあり
方について、その対策の原則的
な面を明確にうちだしている。

『ブナ林を守る』(鳥海山の自
然を守る会・白神山地のブナ原
生林を守る会共編、一九八三年
刊、秋田書房、一〇〇〇円)

秋田の自然の美しさを代表す
るブナ原生林が、開発の名のも
とに破壊されようとしている現
状に対して、秋田の自然を愛す
る人たちの自然を守る運動の記
録。共通する問題は、開発に
対する行政の姿勢、過疎・地場
産業不況を理由に地元住民が自
然保護に消極的になる点があげ
られている。

(大橋 晋)

図書紹介

場山続きの高石山上で盲腸炎になり危く助かったこともある。

第一に尾瀬一帯の雨量を年一二〇〇と推定した。

そこで五万分の一の地図により尾瀬ヶ原へ流入する雨量を計算した。尾瀬ヶ原を囲む周囲の山の尾根を辿って流域面積を計算し、 $750,000\text{m}^2$ と知り、一年間の降水量は $94,500,000\text{m}^3$ 、即ち平均毎秒 3.0m^3 と知った。この水をダムにより貯え 80日 の落差で発電すると、継続して $1,800\text{KW}$ の発電となり、一日五時間運転すると凡そ $8,500\text{KW}$ の発電所となり、大騒ぎして不便の地に、多くの反対を無視して建設する価値はないと言う結論を得た。また揚水発電所としては上部貯水池としては申分ないが、数ヶ月後には再び透明の水を見ることが出来なくなる。

揚水発電所としては電力需要地へ長距離の送電となり送電設備の利用効率を下げるため当時の建設は止めるに如かずと考えた。

(私はその後、富士の山中湖の東の平地とその東の小山脈を越えた世付川との間に $80\sim100\text{万KW}$ の揚水発電所を提案し、安藤新六氏が略設計をした。東電は世付川の水が少い故に着手しない。)

右の結果を当時GHQに勤務中の武田久吉博士にお見せしたところ、国立公園協会へ持参し、新宿御園内の事務室に、建設省の山岡

包平水力課長殿外二三名、国立公園協会々々長田村剛氏外二三名、武田久吉博士外二三名及び筆者が集合することになった。

席上、山岡課長が中沢の推定は少な過ぎると言われ、私は水量の推定が少いならば引下がるが、田子倉の測水表を見せて頂き度いと申し出ると、山岡課長は快諾され当日の会議は簡単に終わった。私は建設省に出向き田子倉測水所の連続十年間の測水量を計算したところ、平均年一六〇の結果を得、山岡課長に報告したところ山岡課長は即座に発電所の建設を止めるのご英断を下された。

尾瀬ヶ原の自然を護るために多くの人が多大の苦心を払われ、それが成功した。私は齢既に百歳に近く、この真実を伝えることの必要を感じて右を書きました。

(付記) 武田久吉博士は私の兄が同期で動物学を学んだ関係でよく知り合った。私は電気工学を学び東京電灯に入って、戦前の関東の発電所の大部分の建設に関係した。大正十一年には信濃川の水力の利用で揚水発電を創案、戦時中には猪苗代湖の水を汲上げて湖水を二倍の発電に供した。

私は尾瀬ヶ原へは大正十三年に一人で案内人を連れ四日かかりで鬼怒沼、八丁の湯を経て帰京、昭和二十三年には同行四人で行きました。筆者の年令は九十五歳であります。

門田正氏への見舞いのお願い

去る三月二十二日、ビックル作者の三代目門田正氏(五三歳)は、蜘蛛膜下出血のため入院されました。ご高承の通り、氏は本会の八十周年記念ビックルの製作者であって、昨年七月から倒れるまで受注総数五三二本のほぼ六割を完成されたところでしたが、こころざし半ばにして挫折されました。病状篤いところから父茂氏は、三月末日をもって五十七年に及ぶ伝統ある門田製作所を廃業されました。その無念悲痛は余人の測り難いところでありまして、登山界にとっても大きな損失といえます。

思えば昭和四年のアイゼン試作、同五年ビックルの試作を経て、翌六年に門田ビックル第一作を世におくりましたが、本会員の皆様におかれましては青春の情熱を雪と氷にたぎらせた心の片すみに、そしてその手と足とに、門田の作品はいつも寄りそって貴方の身分の役割りを存分に果たしてくれたことと思われまします。

その後、幾星霜を経て門田の作品は不動の名声を博しましたが、昨年一月、八十周年記念事業の一環として記念ビックルの製作が決定されました。私共は、古典的な難しい図面を正氏に押しつけ、作業の遅滞を叱咤し、厳し点検を重ねてあのような軽く鋭く美しいビックルが作られま

した。しかし、不幸にして正氏の突然の挫折を知り、この事業に携わった関係者一同は、慚愧の念に耐え難く、思い惑っている次第です。

緑さわやかな初夏の一日、有志一同の発案で門田正氏の一刻も早い回復を願ひ、お見舞いをする事になりました。会員皆様の門田作品への愛情をこめて、ご本復祈願の募金にご協力賜れば望外の幸せに存じます。

募金は末尾記載の方法で、最寄りの郵便局よりご送金戴ければ幸甚に存じます。寄せられたご厚情は、追って会報「山」紙上でご報告させて頂く所存です。既に記念ビックル購入者からは、特段のご協力を賜りましたことを付記し、ここにあつく御礼申し上げる次第です。

記

募金額 一口〇千円
締切日 七月二十日
郵便振替口座番号 東京四一九一九一〇
加入者名 日本山岳会門田募金委員会

発起人 佐々保雄 田口二郎 山田二郎 大塚博美 中村純二 松田雄一 高遠 宏 橋本誠二 平野 明 入沢郁夫 平柳一郎(順不同)

大正はじめの登山

伴野 清
(会員番号・二八四番)

私は、二年近くまえに米寿を越しました。生まれは明治二十九年

五月九日です。小学校三年生のとき、いま新潮社のある矢来町から同じ牛込地区の市谷に引越して八十年あまり住みふろしていますから、まあ江戸ッ子といつてよいでしょう。中学は高師の付属中学で

給少将・阪大教授)が居り、日本

山岳会創立委員の梅沢親光さんと一高からの同期で、既に入会していましたが、この二人の紹介で入会が許されました。

日本山岳会の設立に触発されたと思うのですが、明治の終りから大正のはじめにかけて、高師の付中、一高、慶応などの学校に続々と山岳会が設立され、近代登山の幕明けとなりました。私も大正四年一高に入学会し、藤島敏男君らと旅行部に入りました。夏休みになるのを待ちかねるように山にでかけたのですが、最初の目標は北アルプスの山々で、後で南アルプスや東北の山にも登るようになりました。最も記憶に残るのは、たしか大正五年七月の槍から穂高にかけて、初めて縦走が完遂できたことです。大町から針ノ木を越して五色ヶ原から南下し、薬師、鷲羽と縦走して槍ヶ岳とつづき、それから穂高連峰を南下して上高地に降ったわけです。案内者は大町の大西又吉で、付属中学の学友だった中上川小六郎、宮川久雄君及び一高の大島永明君が同行者でした。北穂を降りかかったところで、横有恒さんが嘉門治を案内に下から逆に登りかかるのに出逢いましたが、この十日ほどの間に人に逢った記憶は、他の二、三のパーティーしか残っていません、この時代の上高地にも清水屋一軒だけという状態がしばらく続き、他の旅館はありませんでした。

最近、夏になれば、上高地はもとより、北アルプスの山々は人で埋まるような盛況と聞いています。登山される方には、ある意味でお気の毒な感じがいたします。もっとも釜隧道のお蔭で、夏、マイカー規制の行なわれているのは、せめてもの慰めです。

報告 ××××××××××××××××××

15周年記念登山

岐阜支部

岐阜県西北部、根尾川に沿って北上、淡墨校と能の里として知られる根尾村にて、四月二十六日(土)、二十七日(日)、岐阜支部設立15周年を記念して、懇親会と能郷白山(一六一七)登山が行なわれ、全国各地よりのお客様を含め四十四名の参加者があった。宿泊先の源屋にて、松井支部長の音頭で乾盃、根尾川の清流で育ったアマゴ、マス料理に舌鼓、ビールで喉をうるおし、お国自慢の民謡大会が始まった。

よく二十七日、早朝出発、能郷谷に沿う悪路を車で登る。六時、登山開始。昨夜の雨で増水した小川を、いきなり徒渉。前山への急登にあえぐ。標高一四〇〇があたりより残雪が表われる。よくしまっており、快調な足並である。頂上直下二百、三十度をゆうにこす雪の急斜面。おりの雨まじ

スイスの岳友への感謝

山口 一孝

私の今回のスイスへのセンチメンタルスキーツアーのきっかけはグラウビュンデンの岳友フロリアンの招待ですが、実現出来たのは全く君とスイスの岳友のお蔭で、七四年の生涯で最も楽しく意義ある収穫を得たことを心から感謝しています。帰国してからも相変らず元気ですが、いつも求め贈られたテープで美しいスイスやドイツの民謡を聞いたり、写真を見ながら最も幸福だったスイスでの日々を回想しています。

共に過したあの宵の酒場のムード、今日も昨日も雪の降るツエルマットの街を馬車が行く風景が昨日の感じでした。五日目の朝やっと再会したマッターホルンは忽ち雲に隠れてしまいました。君とゴルネルグラートまで登ったら快晴で、モンテローザが全容で迎えてくれたのは感激でした。二五〇〇米までの雪質は絶好で夢の滑降でした。

ツエルマットでの今一つの最高の思い出は私がホテルバンホフに到着した四月九日が偶々ベルナルド・ビネルの命日だったことです。妹のパウラは彼が私を呼んだのだと言ってくれました。私は彼の写真とピッケルとザイルを前に黙祷。万感胸に迫りました。こんな時、般若心経を上げるのが私の習いですが場違いの感じがし、暫らく考えたところ、"Dona dona nobis Pacem"を静かに唱い始めました。また帰る朝も彼女と共に霊前で冥福を祈りましたが、その時は私が先ず、"Ich hatt' einen



Kameraden" を唱ったところ、次にパウラがとてもしきれいなソプラノで "Alpen Rose" を唱え、最後に私が "uns're Freundschaft Harmonien, daunen ewig fest und Schön-Bundslid" を唱えましたところ思いもかけず二階から盛んな拍手が聞えて参りました。それからツエルマットを立ち、ベルンの駅で私にスイス山岳会員章を贈ってくれたアンドレとうまく落ち合いました。二十七年振りの再会を喜び合い、先ずJACのバッチを私の胸から外し彼のヤッケにつけてあげました。初めて会った時は五歳だった小娘のコセツも既に三児の母親となっていて一諸に迎えてくれましたが、彼等の車でプレールの自宅に招かれ、グレル夫妻、ゴシエ夫妻、可愛い子供たちと心温まる一夜を過ごさせていただきました。

まとめとして全国のツアーでとくにツエルマットでの天候は異状で四月とは思えぬ降雪の連続でした。グラウビュンデンの数日は好天雪質も絶好で、レンツェルハイデ、ダボス、パルセン、ラークスなどで快適な滑降を満喫することが出来ました。が、ゴルネルグラートの二五〇〇米以下、スネッガ、ブラウヘルト、トロックナーステークは濃密なガスと重い新雪で極度に慎重に滑りました。スキーも素晴しかったですが、それにも増し感銘したことはスイスの岳友の家庭に迎えられ、勤勉質実であると共に親子孫三代にわたる団欒と話合が実に板についていることでした。私は暫らくスイスを忘れ東南アジアにうつつを抜かしてしまいました。来世の極楽往生を願い仏を信じて生き抜くラダックもインドもスリランカもタイも素晴らしい魅力であることに変わりありませんが、現世を生きる範はやはりスイスだなあと感じました。富国強

東西南北

りの強風と濃霧に足がすくむ。九時半ごろ、全員登頂。万歳三唱の後、ビールで乾盃。強風と濃霧のため視界がまったくきかない。熊笹の中でふるえながら昼食。ウイスキー、梅酒、焼酎、温かいコーヒをいくらか飲んでも寒く、十時半下山開始、帰途につく。

天候には恵まれない山行であったが、皆様と楽しくお話しすることができ、心に残る一日であった。

参加者・順不同 祖父川精治、安土武夫、川北仁、高田真哉、富田郁夫、原謙一、赤松光、神原忠夫、岩堀瑞子、高橋重子、森井修、井上紀子、山内士具、小野木、大江直義、太田義一、亀岡ちえ、山上皓一郎、東真澄、江馬諭、遠藤恵大、影山英雄、木村繁、国枝武喜、佐藤正雄、佐藤芳久、四手井靖彦、清水芳彦、瀬川昂生、関本俊雄、高木碯男、高木基揚、高木泰夫、高橋達雄、玉岡憲明、西川順、広瀬正、藤井茂雄、藤井洋、松井辰弥、三浦伝明、水野美代子、森本市郎、山口昭一。(江馬諭)

岩手支部から

・春の例会山行

四月二十六日、午後から戸塚森へ雨の中登る。大麻部山麓の虹葵荘にて、ソバを賞味、石臼で粉をひき、裁ち、約一時間、山葵の葉味で小昼、夜は遠野海老旅館で

宮城支部長、庄司駒男氏を混じえて歓談。

四月二十七日、畑屋沢より、ウサギコウモリの生息する大開山へ。標高千米地点で時間ぎれと雨天のため下山。帰途、南部曲屋の千葉家、峠の茶屋にて直会。

参加者 庄司駒男、阿部国雄、田鎖寿、石村実、石村夫人、鹿野松男、和田庄司、関口宏、宮伸穂、須々田秀美、佐藤正、松田和弘、棚田房男、畠山優、佐藤紀子、佐藤敏彦。

・今西錦司元会長とかぬか平山行

五月三日、葛巻町小屋瀬からカタクリ、一輪草、福寿草咲く浦志内林道より、現成周水河の構造土で知られる三菓子山、川場台をへて本州で最も寒冷地の藪川経由で岩泉町安家、かむら旅館泊。

五月四日、折壁より穴目林道をへて牧野よりエゾエンゴサクの中を二等三角点、残雪の穴目ヶ岳に登る。地元、岩泉町、竜泉洞、地底湖の水割りで乾盃、ここが日本のチベットの、さらに塩の道の和佐羅比山で一等三角点と天測点に触れる。かむら泊。

五月五日、卯子西山で目の神様の薬師神社を詣で、アオゲラのドラム、タラの芽一杯の原地山の両一等三角点へ、三日間とも大快晴、大学者賞受賞直後に相応しい山行であった。

参加者 今西錦司、新井浩(京都支部)、平林芳夫、佐藤正雄(岐阜)

東西南北 兵の列国に囲まれ、資源乏しく、美しいが厳しい気候と風土の環境下に毅然として何気なく自由と独立と平和を生き抜いて来たスイスの歴史は今もゆるぎなく続いていて、その基盤はこのような

心のつながる家庭にあることを肌で感じ得たことこそ今回ツアーの最高の収穫だったと思っていま

す。君とスイスの岳友諸君本当に有難う。

将監峠越えの道

柿原 謙一

私は奥秩父の将監峠越えをしていない。数回この峠を歩いたが、甲武国境の縦走ばかりで、三ノ瀬部落から峠にたつても、秩父の大洞川に直行してない。

ところが先年三ノ瀬からここに登り、飛竜を廻って奥多摩に降った山友山田(亮)さんから、将監峠をこして秩父側への道はすぐに降らないので、つまり峠越えの実感がないが、昔からの峠路はどれなのかと問われた。これには当惑したが、甲州の人が三峰神社参詣のため、和名倉山(白石山)への稜線途中から惣小屋谷に降り、大洞川添いに三峰山へ行く路だろうと答えた。これでは峠降りの通念にならず、ご当人は納得しない。左して栃本に降るにしては、雁峠越えの方がいいだろうと言

う。田部(重治)さんは大正七年十一月に、塩山―柳沢峠―落合―三ノ瀬―将監峠―惣小屋谷―大洞谷―三峰と歩かれた(『晩

秋の奥秩父』。峠から和名倉山への稜線をゆき、滝川谷・惣小屋谷分岐点から大洞川へと降った。これが古い峠路のはずだ。すぐ降らない。

ところが最近『大滝村誌』資料編三の三三三頁にある慶応三年(一八六七)の文書をみて驚いた。大滝村の麻生から二瀬(○現在秩父湖々底)―大洞川沿い―将監峠越えて、「追々馬人数通行

井買荷物等通行いたし候」と書かれている。江戸時代の栃本には関所が設けられ、ついで麻生にも番所(加番所ともいう)がおかれた。甲州街道の裏道である雁坂峠越えでも、出女・入鉄砲が吟味されていった。私には将監峠越えのこ

で、麻生は無用と思った。栃本には慶長十九年(一六一四年)に関所が設けられた。ここから東三軒ほどの同じ往還ぞいの麻生に、関所なみの番所がまた置かれた。寛永二十年(一六四三年)である。なぜ栃本のちかくにまた番所なのかと、私は幕府の措置をい

いふがしく思っていたが、慶応三年の文書で一切が理解できた。栃本―雁坂峠―の甲州側には、川浦に関所があった。二箇所で吟味

ができる。ところが栃本手前の麻生から荒川を渡り、将監峠として甲州に抜ければ、栃本・川浦は無通過で吟味もされず、甲武の交通ができる。これが判ったから、幕府は栃本関所設置の三十年後に麻生に番所を設け、裏街道のまた裏道の吟味を必要としたわけであろう。それにしても抜け道はあるものだ、と痛感した次第である。

百年も前にこの抜け道を辿り、人馬荷物を通すには、惣小屋谷谷合―将監峠の間は田部さんの降った道となろう。五万分之一図幅では、この地区が傾斜がややゆるやかで、馬を通すにはこのほかはあるまいと思う。これで山田さんの疑問に答えられよう。峠の風情と通念を欠くも、将監峠はまさに抜け道の本領をもつ峠だったのだらう。

日本山岳画協会

五〇年記念展

日本山岳画協会は足立源一郎、中村清太郎、茨木猪之吉、石井鶴三の諸氏十二名の画家(顧問に小島島水、藤木九三両

阜支部。河村皆子(北海道支部)。田鎖 寿、中谷 充、和田庄司、関口 宏、浅野新一、石村 実、石村夫人、鹿野松男、宮 伸穂、近藤有慶、菊地修身、小口洋右、須々田秀美、渡辺博厚、長村 仁、山崎成一、山崎夫人、佐藤英雄、佐藤紀子、佐藤敏彦(岩手支部)。他七名。(佐藤敏彦)

「穂高は生きてゐる」映画会

四月二日(水)、ルームにて自然保護委・フィルム委共催



穂高小屋の神憲明氏が、前回の穂高讃歌に続いて、またまた驚くべき映画を作ってくれた。このような素晴らしい映像を見せてくれると映画というものを再考したくなってしまう。当夜、関係理事の司会で映画が始められたが、観衆は、あくまで非現実的な美しさの穂高に、唯々、ため息をつくばかりであった。

前回の穂高讃歌の狂言廻しの役が可憐な雷鳥だったのが、今回は風によぐ高山植物である。そして穂高は、烈しく吹きつける雪におのき、川のせせらぎに新緑を映して笑み、岩棚に嫋嫋と降りしきる霖雨に泣き、峰々にとどろく雷鳴に怒り狂い、そして涸沢に、目も鮮やかな色の饗宴を奏でる。

この映画をみて、誰でも、穂高はこんなに美しかっただろうか、と疑問を持つことだろう。たしかに、いちげんの登山者には、このように穂高は見せてくれない。それは、そこに住みつき、穂高をこよなく愛し続ける者のみに許された特権であるかもしれない。当夜の神氏は「ウェストン師や小島鳥水氏が当時見たであろう昔の穂高を撮りたかった」と述べられている。そして、それは神氏のひたむきな情熱と映画のフレイムの魔術によって、見事に成し遂げられた。従って、この画面で見られる美しい穂高は、残念ながら現実には見ることが出来ない。それは昔の穂高だからである。こうした非現実の、あくまで幻想となつてしまった穂高を、このように映像化してくれた神氏に深く感謝する次第だ。この昔の穂高が、益々、遠ざかっていってしまうのが現実だからこそ、この貴重な映像が後世にのこされることに、深い意義が

北氏) によって、昭和十一年創立され、第一回展が同年七月日本橋高島屋において開催された。

爾来、戦中戦後の動乱期(終戦時だけ休会もあったが)から、世界に広がりゆくわが国の中で、その活動の発表を続け、今年はその五〇年の記念すべき年に当ります。会員数現在二十一名、本年度展を左記により開催、全会員 力作発表を目指しておりますので、ご多忙中と存

あると言えるだろう。

この映画を一人でも多くの人が見られることを希望する。また、数々の山の名著を座右の書としてお持ちのように、この映画も座右の映像として持たれることをおすすめしたい。幸いなことに、当今ビデオが普及したため、この映画もビデオ化されて、誰でも簡単に入手出来るようになった。ちなみに「穂高讃歌」は文部省特選、日本山岳会自然保護委員会推薦であり、「穂高は生きてゐる」も、日本山岳会自然保護委員会が推薦することになった。

出席者 神憲明 錦織保清 齊藤 かつら 鳥居亮 織内信彦 鳴原 一男 国井孝保 寺本昭一 佐山 邦彦 鳴原啓佑 神原忠夫 仙士 俊一 松田雄一 内藤俊夫 田中 茂夫 中村純二 中村あや 高澤 英夫 織田澤美知子 早川瑞璃子 大峰芳枝 鈴木嶋夫 高橋寿美江

じますが、ご来観お待申上げます。

記

〇七月九日(水)―十五日(火) 午前十一時―午後六時三十分 日曜、最終日は午後五時

〇朝日アートギャラリー 東京都中央区銀座四一〇一 電話03(535)7740

〇国電有楽町、地下鉄丸ノ内線銀座下車 マリオン脇、高速下、朝日旅行センター隣

事務所・東京都練馬区東大泉六 一―二―一五 電話03(92)6670 藤江幾太郎方

山里寿男個展

〇六月二十七日(金) 七月二日(水)

〇銀座松屋七階美術画廊 〇チベットを中心とした作品ほぼ三十点

追記

河野幾雄 松家晋 原謙一 武川 恵美 南川金一 平戸孝夫 山口 暁 村山雅美 神原忠夫 林一枝 中川武 渡辺正臣 遠藤光男 大塚玲子 関口周也 広羽清 細井 澄子 横山隆 佐藤知恵子 加治 川栄二 国見利夫 関塚貞亨 小林碧 大塚博美 鈴木郭之 入澤 郁夫 (鈴木郭之)

さくらハイク

会員懇談会・扇山山行

連日の雨続きではあったが、四月二十日の予報は「曇り、所により時々小雨」。新宿発の車窓から雨のないう山行を祈りながら鳥沢駅に着いたが、菜種つゆは止みそうもない。

駅前で雨仕度をして出発した九時から夕方四時の四方津駅まで終日雨の降り続いた山行であった。降り続く弥生半ばの扇山

長い間工事中だったゴルフ場も完成し登山口には立派な階段も出て、今までのように迷うこともなく、小屋で休憩、雨宿りをしてから長い縦隊が賑やかに続いた。三月二十一日の大雪害により、引き裂かれた大樹の生々しい傷痕に驚き、数多い倒木を迂回しながらも、樹々の新芽の香り、精一杯に咲いているスミレの群落、鶯の

コースに励まされて、十一時四十分頂上着。

先発隊の作って下さった温かい飲物を頂きながら昼食。

雨の中の食事は半数ほどは立ったままワイワイ、ガヤガヤ。

扇山ならでは見られない道志、丹沢の山波の彼方に悠然と裾を拡げる素晴らしい富士も、眼下に輝く大野貯水池や相模湖も視界は全くのゼロ。

初めてここに来られた方、特に小学校二、三年生の数名の方達や遠い伊勢から参加された方などにはお気の毒でならなかった。

神崎さんの音頭による山の唄の合唱を終わってから鳴原さんの先導で下山に移る。

山頂から東南に伸びる粘土質の急な尾根道を幾度も転んでは大きな笑顔を挙げながら大目に着く。

この大目峠から描いた北斎の富士の面影は見られなかったが、桜や杏が真盛りで雨の中に煙っていた。「幅の絵のよう」とは関塚さん？の言葉。

大野貯水池で小憩後、歩いて四方津駅着。ここでこの山行にお骨折り下さった新入会員や総務委員会の方々の紹介あり、散会。

昨年は五十余名。共に素晴らしい好天の箱根古道の散策であったが、今年は雨の中。雨ならではの得がたい印象深い山行であった。雨照るもよし、曇りまたよし、雨

もよし、山の集いにあしきことなし。新入会の方々には最初の顔合わせで、知人も少く何かとそぐわないこともあったかと思いますが、回を重ねる毎に親密度も加わりますので、山行の他に毎月ルームで催される集いには積極的に参加されて早く馴染まれるよう祈ります。

参加者 荒木健次、岡野谷誠、景子、小田 薫・尚子・久美子、小林 碧、齊藤 董、佐野加代子、関 清、高田真哉、高部正夫、遠田 栄・篤子、富田広臣、篠原健夫・志穂・岳彦、鳥飼和清、二宮澄朗、広羽 清、丸茂キクエ、南井英弘、望月重明、山口道弘、山崎 健、吉田 実、渡辺富士子、中島瑠子、VALERIE、RESER、岩佐邦彦、大塚玲子、鳴原一男、仙土俊一、石橋正美、神崎忠男、関塚貞亨、高遠 宏、南川金一、藤井正彦、堀田典郷・宣子 (遠田 栄)

・会務報告

四月理事・評議員会

4月17日午後6時30分

場所 本会ルーム

出席者 今西会長、山田、大塚副会長、鳴原、橋本、大橋、浜口、梅野、高遠、鈴木、新井、長谷川、平井、絹川、岡沢、大森(久)、関塚各理事、宮下、中村、松田、渡辺、伊藤、望月、織内、田口、越

・ルーム日誌

四月

1日(火) 婦人懇談会
2日(水) 自然保護映画会

9日(水) 図書委
10日(木) 常務理事会

15日(火) 婦人懇談会、総務委

17日(木) 理事会、評議員会

18日(金) 会報委、科学研委會

21日(月) 総務委、博物館を考える会

22日(火) 自然保護委、山岳編集委

23日(水) フィルム委

24日(木) 婦人懇談会
今日の来室者41名

●61年度除籍の件 承認
●細則一部変更の件 承認
●定款一部変更の件 承認

●61年度監事選任の件 候補者推薦(金坂一郎氏、山本健一郎氏)
●61年度収支予算案 原案承認
●61年度収支決算報告 原案承認
●61年度事業計画案 原案承認
●61年度事業報告 原案承認

●総会提出議案について 審議事項
●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認

●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認

●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認

●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認

●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認
●60年度事業報告 原案承認

(2) 一般会計 支出の部

(単位:円)

勘定科目		予算額	決算額	差 異
大科目	中科目			
運営管理費	給料・手当	5,450,000	5,581,500	-131,500
	文具・消耗品	100,000	47,010	52,990
	印刷・製本費	1,500,000	2,440,710	-940,710
	旅費・交通費	550,000	538,040	11,960
	通信・運搬費	1,000,000	867,770	132,230
	火災保険料	70,000	60,350	9,650
	営繕費	200,000	25,220	174,780
	諸税・会費	550,000	551,750	-1,750
	光熱水料費	250,000	228,376	21,624
	電話料	400,000	303,790	96,210
	会議費	150,000	212,280	-62,280
	什器備品費	100,000	49,620	50,380
	振替手数料	200,000	224,620	-24,620
	支部運営費	650,000	696,200	-46,200
	福利厚生費	100,000	104,299	-4,299
	事務所管理費	600,000	667,200	-67,200
	その他管理費	600,000	471,025	128,975
	雑費	300,000	240,180	59,820
	計	12,770,000	13,309,940	-539,940
事業費	出版費	9,200,000	7,399,024	1,800,976
	図書費	650,000	486,070	163,930
	調査研究費	620,000	630,360	-10,360
	指導費	1,290,000	1,108,059	181,941
	支部関係費	1,500,000	1,636,090	-136,090
	海外諸関係費	170,000	235,455	-65,455
	山岳研究所運営費	1,692,000	1,945,938	-253,938
	その他事業費	700,000	698,140	1,860
	印刷・製本費	1,000,000	943,250	56,750
	計	17,722,000	16,401,232	1,320,768

昭和 60 年度収支決算書

自 昭和 60 年 4 月 1 日

至 昭和 61 年 3 月 31 日

(1) 一般会計 収入の部

(単位:円)

勘定科目		予算額	決算額	差 異
大科目	中科目			
基本財産運用収入	基本財産利息収入	600,000	535,825	64,175
	入会金収入	2,550,000	3,045,000	-495,000
会費収入	会費収入	25,000,000	26,495,208	-1,495,208
	終身会費収入	0	250,000	-250,000
事業収入	会費収入計	25,000,000	26,745,208	-1,745,208
	広告料収入	1,200,000	1,272,200	-72,200
寄付金収入	その他印税収入	0	29,351	-29,351
	刊行物売上収入	450,000	475,680	-25,680
雑収入	その他事業収入	2,000,000	1,614,030	385,970
	山研使用料収入	1,330,000	1,214,838	115,162
別途会計運用収入	事業収入計	4,980,000	4,606,099	373,901
	寄付金収入	0	0	0
小計	受取利息	800,000	759,760	40,240
	雑収入	500,000	215,670	284,330
前期繰越	小計	1,300,000	975,430	324,570
	図書出版基金収入	0	381,397	-381,397
合 計	長期計画準備金収入	0	277,129	-277,129
	小計	0	658,526	-658,526
収入計		34,430,000	36,566,088	-2,136,088
前期繰越 前期繰越収支差額		11,127,186	11,127,186	0
合 計		45,557,186	47,693,274	-2,136,088

(事務所) 区分所有建物1階部分 103.32 m ² 宅地持分 1,124.56 m ² ×339/10,000	72,720,170
(図書室) 区分所有建物1階部分 55.22 m ² 宅地持分 1,124.56 m ² ×176/10,000	
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村上高地国有林 114 い林小班 構造 鉄筋コンクリート造(一部木造) 1棟 100.69 m ²	9,583,808
合 計	82,303,978

4. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	60 年度 受入冊数 207 冊	5,363 冊
洋 書	" " 7 冊	2,093 冊

5. 什 器 備 品

品 名	取 得 日	取得価格 (円)	所 在
大テーブル(2台セット), チーク材 750×1200×720	48. 7.31	164,200	上 高 地 山 岳 研 究 所
ソファーセット, チーク材レザー張	48. 7.31	178,000	"
冷蔵庫, 日立 R303T	48. 7.30	148,500	"
テレビ, サンヨー 20-C 501	48. 7.30	108,000	"
スク립トマティック宛名印刷機, M36	53. 2.10	265,500	事 務 所
書庫内移動書架一式, コンパクル	53. 2.10	1,500,000	図 書 室
応接セット一式, 布張イス, テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	事 務 所
閲覧用テーブル(2台), 木製	53. 9.28	250,000	図 書 室
ライティングビューロー, 木製	54. 6.23	280,300	"
テレビ, シャープ CT-2601 (寄贈品)	55. 6. 4	80,000	談 話 室
ビデオカセットレコーダー, シャープ VC7000 (寄贈品)	55.12.27	116,000	"
フィルム収納キャビネット(スチール製)	56. 8. 8	254,000	図 書 室
図書カード容器 木製3段	56. 9.12	200,000	"
書 棚 木製2段	56.12.22	500,000	"
合 計		4,262,500	

6. 絵 画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載, 保管場所
白 馬 岳	油 A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富 士 山 麓	油 A-25	茨木猪之吉	"
田 代 池 の 白 樺	油 変 形 6	中村清太郎	事務所(談話室)
群 狼	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊 豆 半 島	油 一 10	茨木猪之吉	"
針 の 木 峠	油 一 10	茨木猪之吉	"
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	"
初 冬 の 両 神 山	油 一 10	茨木猪之吉	"
鳥(カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	"
メールドグラス	エッチング	"	"
モンブラン	"	"	"
後 立 山 連 峰	水 彩	中村清太郎	"
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラギント ワイト	"
ユングフラウ (1966 年作)	油	山里 寿男	事務所(集会室)
瀧沢より北穂高	水彩 一 6	山里 寿男	図 書 室
槍 ケ 岳 初 夏	油 一 10	中村清太郎	事務所(集会室)
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	事務所(談話室)
北 穂 高 滝 谷	油 一 25	足立源一郎	"
或 朝 の 槍 ケ 岳	油 一 25	足立源一郎	図 書 室
北 穂 高 岳 主 峰	油 一 25	足立源一郎	事務所(談話室)
槍 ケ 岳	油 一 P 8	足立源一郎	上高地山岳研究所
タンボチエの僧院	水彩 一 4	清野 恒	事務所(集会室)
シェルパの親子	水彩 一 4	清野 恒	"

通 信 運 搬 費	4,000,000	3,664,580	335,420
光 熱 水 料 費	370,000	328,549	41,451
計	21,192,000	19,075,515	2,116,485
借入金返済 支 出 予 備 費	長期借入金返済支出 3,312,000	3,311,904	96
繰入金支出	予 備 費 1,000,000	0	1,000,000
繰入金支出	別途会計繰入支出	908,526	-908,526
小 計	38,274,000	36,605,885	1,668,115
次 期 繰 越	次期繰越収支差額	7,283,186	11,087,389
合 計	45,557,186	47,693,274	-2,136,088

◎別途積立金

昭和 61 年 3 月 31 日現在

(単位: 円)

内 訳	前期繰越	繰入収入	取崩支出	次期繰越
終身会費積立金	1,000,000	250,000	0	1,250,000
図書出版研究基金	6,461,160	381,397	0	6,842,557
長期計画準備積立	5,026,252	277,129	0	5,303,381
登山特別基金	0	12,183,242	0	12,183,242
退職給与積立金	2,000,000	0	0	2,000,000
合 計	14,487,412	13,091,768	0	27,579,180

財 産 目 録

昭和 61 年 3 月 31 日現在

(資産の部)

1. 基本財産

(単位: 円)

種 類	預 入 先	金 額
貸付信託	三井信託銀行 本店	2,380,000
"	日本信託銀行 本店	420,000
"	中央信託銀行 本店	5,200,000
合 計		8,000,000

2. 現金および預貯金

(単位: 円)

種 類	預 入 先	金 額
現 金		21,882
振替貯金	東京地方貯金局	211,630
普通預金	協 和 銀 行 市ヶ谷支店	2,313,296
"	三 菱 銀 行 市ヶ谷支店	298,713
"	三 和 銀 行 本 郷 支 店	28,861
"	東 京 銀 行 本 店	13,745
"	中央信託銀行 本 店	58,367
"	三井信託銀行 新宿西口支店	79,845
"	日本信託銀行 本 店	61,050
定期預金	協 和 銀 行 市ヶ谷支店	8,000,000
普通預金	" (図書出版研究基金)	767,557
定期預金	" (")	6,075,000
"	" (長期計画準備積立金)	5,303,381
"	" (終身会費積立金)	1,250,000
"	" (登山特別基金)	12,000,000
普通預金	" (")	183,242
定期預金	" (退職給与積立金)	2,000,000
合 計		38,666,569

3. 建物および土地

(単位: 円)

A 事務所および図書室	金 額
場所 東京都千代田区四番町 5 番 4	
構造 鉄筋コンクリート造, 陸屋根, 地下1階付5階建	

2) 支出の部

(単位:円)

勘定科目		予算額	前年度 予算額	増減 (△)
大科目	中科目			
運営管理費		12,028,000	12,120,000	△ 92,000
	給料・手当	5,698,000	5,450,000	248,000
	消耗品費	80,000	100,000	△ 20,000
	印刷製本費	800,000	1,500,000	△ 700,000
	旅費交通費	550,000	550,000	0
	通信運搬費	1,000,000	1,000,000	0
	火災保険料	70,000	70,000	0
	修繕費	100,000	200,000	△ 100,000
	租税公課	550,000	550,000	0
	光熱水料費	250,000	250,000	0
	電話料	400,000	400,000	0
	会議費	150,000	150,000	0
	什器備品費	100,000	100,000	0
	振替手数料	230,000	200,000	30,000
	福利厚生費	100,000	100,000	0
	事務所管理費	650,000	600,000	50,000
	その他管理費	1,000,000	600,000	400,000
	雑費	300,000	300,000	0
事業費		22,625,000	21,842,000	783,000
	出版費	9,500,000	9,200,000	300,000
	図書費	650,000	650,000	0
	調査研究費	635,000	620,000	15,000
	指導費	1,300,000	1,290,000	10,000
	支部関係費	2,450,000	2,150,000	300,000
	海外諸関係費	200,000	170,000	30,000
	山研運営費	1,820,000	1,692,000	128,000
	その他事業費	700,000	700,000	0
	印刷製本費	1,000,000	1,000,000	0
	通信運搬費	4,000,000	4,000,000	0
	光熱水料費	370,000	370,000	0
借入金返済 支		3,312,000	3,312,000	0
	借入金返済支出	3,312,000	3,312,000	0
予備費		1,600,000	1,000,000	600,000
	予備費	1,600,000	1,000,000	600,000
小計		39,565,000	38,274,000	1,291,000
次期繰越 収支差額		4,932,389	7,283,186	△ 2,350,797
	次期繰越収支差額	4,932,389	7,283,186	△ 2,350,797
合計		44,497,389	45,557,186	△ 1,059,797

昭和 60 年度事業報告

(60. 4. 1~61. 3. 31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、講習会および展覧会の開催

(1) 集 会

- 4 月 4 日 定例講演会「ニュージーランドあれこれ」
一 中村テルー (本 会)
- 4 月 4 日 日本山岳会学生会部前期総会 (本 会)
- 4 月 13 日 フィルム映写会「冬のロータン峠」
(本 会)
- 4 月 14 日 新入会員との日帰りハイキング (箱 根)
- 4 月 16 日 会員懇談会「アラスカ、アイスクライミング
報告会」 (本 会)

※他の絵画、写真 省略

7. フィルム

「マナスルに立つ」 他 62 点

8. 刊行物・服飾品棚卸現在高

(単位:円)

摘 要	金 額
刊行物 (山岳, 山岳覆刻版等)	1,428,630
服飾品・その他 (ネクタイ・ペンダント等)	1,866,750
合 計	3,295,380

(負債の部)

●長期借入金 未済残高 ￥5,621,689

ア 借入先 中央信託銀行株式会社本店

イ 利 率 年利 8.16%

ウ 担 保 事務所および図書室の建物と土地を担保として
差入れる。

エ 返済年月 昭和 63 年 1 月まで

●退職給与引当金 ￥2,000,000

社団法人 日本山岳会 昭和 60 年度収支決算書および財産目録を
監査し、正確妥当なことを認めます。

昭和 61 年 4 月 17 日

社団法人 日本山岳会

監事 竹 田 寛 次

監事 金 坂 一 郎

一 般 会 計

昭和 61 年度 予算書 (案)

自 昭和 61 年 4 月 1 日

至 昭和 62 年 3 月 31 日

1) 収 入 の 部

(単位:円)

勘定科目		予算額	前年度 予算額	増減 (△)
大科目	中科目			
基本財産 運用収入		500,000	600,000	△ 100,000
	基本財産利息収入	500,000	600,000	△ 100,000
入会金収入		3,000,000	2,550,000	450,000
	入会金収入	3,000,000	2,550,000	450,000
会費収入		25,700,000	25,000,000	700,000
	会費収入	25,700,000	25,000,000	700,000
	終身会費収入			
事業収入		3,360,000	4,980,000	△ 1,620,000
	広告料収入	1,000,000	1,200,000	△ 200,000
	印税収入	30,000	0	30,000
	刊行物売上収入	450,000	450,000	0
	その他事業収入	500,000	2,000,000	△ 1,500,000
	山研使用料収入	1,380,000	1,330,000	50,000
寄付金収入		0	0	0
	寄付金収入	0	0	0
雑収入		850,000	1,300,000	△ 450,000
	受取利息	600,000	800,000	△ 200,000
	雑収入	250,000	500,000	△ 250,000
小計		33,410,000	34,430,000	△ 1,020,000
前期繰越 収支差額		11,087,389	11,127,186	△ 39,797
	前期繰越収支差額	11,087,389	11,127,186	△ 39,797
合計		44,497,389	45,557,186	△ 1,059,797

- 6月28日 講演会「チャンタン高原の自然」
—五百沢智也— (本会)
- 10月24日 講演会「登山中の栄養と食べ物」
—本山十三生— (本会)
- 11月27日 シンポジウム「高所登山におけるアルバイ
ン・スタイルの問題について」—重広恒夫、
田中壮信、山本幸彦、和田城志、坂下直枝—
(本会)
- 11月30日 シンポジウム「ヒマラヤの生態系と環境」
(日ネ協と共催)—川喜田二郎、中尾佐助、
沼田 真、渡辺 桂、渡辺兵力—
(中野サンプラザ)
- 1月23日 講演会「北アルプスにおける自然エネルギー
の利用」—鳥居 亮、重村 清、森 武昭—
(本会)
- 2月13日 講演会「高所障害の後遺症について」
—川久保彦彦— (本会)
- 3月18日 セミナー「トレーニング」
—柳沢昭夫、松永敏郎— (本会)
- 4月～9日 山の気象講座 (第6回～第10回)
—大井正— (本会)
- (3) 講習会
4月12～14日 山岳スキー技術講習会
—小林政志— (巻機山)
6月15,16日 岩登り講習会 (学生部主催) (小川山)
10月19,20日 フリークライミング、ボルダリング講習会
(指導委員会、青年懇談会共催)
—池田 功— (城ヶ崎)
2月15,16日 アイスクライミング講習会
—勝山康雄— (日光・松木沢)
3月14～16日 山岳スキー技術講習会
—小林政志他— (志賀高原周辺)
- (4) 展 覧 会
8月19～23日 会員による絵画・写真展 (三菱センター)
8月22～27日 80周年記念展 (本会)
2月15日 第23回「この一本展」山岳写真集
(本会)
- (5) 全国にある21支部では、それぞれ集会、研究会、講演会、
山行 (海外登山も含む) 等が活発に行われた。
5月11日 創立80周年東北地区記念講演会、晩餐会
(岩手、秋田、山形、福島、宮城支部共催)
(ホテル仙台プラザ)
6月15,16日 創立80周年記念講演会、晩餐会、記念山行
(越後支部)
(長岡・北越銀行ホール、東泉閣、八海山)
6月22,23日 秋田支部設立25周年記念山行 (根烈岳)
7月13,14日 創立80周年記念講演会、晩餐会、山行
(北海道支部)
(札幌・北方圏センター、暑寒別岳)
9月28,29日 創立80周年北陸地区記念講演会、晩餐会
(富山・石川支部共催)
(上市町北ア文化センター、
馬場島・家族の森)
9月～10月 静岡支部主催文化講座 (5回)
(静岡市中央図書館)
10月19,20日 関西支部50周年記念晩餐会 (仁川ハイツ)
11月9～10日 第28回紅葉会 (静岡支部) (梅ヶ島温泉)
2. 登山施設の改善その他登山のための適切な事業
・上高地山岳研究所を5月～11月まで開所
・山の科学に関する文献目録の作成

- 4月20,21日 懇親山行 (南大菩薩連山)
5月22日 山菜勉強会 一片岡 博— (本会)
5月24日 支部長会議 (本会)
5月24日 昭和60年度通常総会 (私学会館)
5月25,26日 若葉会山行 (福島、猫魔ヶ岳)
6月2日 第39回ウエストン祭 (上高地、信濃支部)
7月5～7日 懇親山行 (早池峯山)
7月6日 中国登山隊歓迎会 (私学会館)
7月6,7日 懇親山行 (櫛形山)
8月10日 鄭在泓先生を囲む会 (本会)
8月24日 支部長会議、支部懇談会 (椿山荘)
8月24日 創立80周年記念式典、祝賀晩餐会
(椿山荘)
9月15,16日 懇親山行 (北ハケ岳)
10月10日 第22回学生部マラソン大会 (皇居周辺)
10月10日 現地小集会 (群馬、碧岩、大岩)
10月11～13日 懇親山行 (鳥海山、月山)
10月14～28日 アメリカ山岳会アラスカ支部との交歓登山
(小川山、城ヶ崎、富士山他)
10月15日 会員懇談会「ナムナニ峰登頂報告会」
—斎藤淳生— (本会)
10月17日 中国登山隊報告会 (本会)
10月17日 秋山山行勉強会 (本会)
10月20日 日本山岳会学生部後期総会 (本会)
10月21日 アメリカ山岳会歓迎会 (私学会館)
10月26日 山岳図書交換会 (本会)
10月26,27日 秋山山行 (安達太良山)
11月2～4日 懇親山行 (恵那山)
11月3日 現地小集会 (巻機山・米子沢)
11月6日 秋山山行写真発表会 (本会)
11月9,10日 丹沢・丹水会山行 (丹沢)
11月14日 大学山岳部との懇談会 (本会)
11月15日 会員懇談会 ドイツ映画「銀嶺に帰れ」
観賞 (本会)
12月7～8日 懇親山行 (秋山二十六夜山)
12月8日 懇親山行 (三浦半島、双子山)
12月22日 現地小集会 (石老山)
1月11,12日 スキー山行 (柎池)
1月16日 インド登山財団ジャヤール氏歓迎会
(電気ビル)
1月18,19日 懇親山行 (伊豆二十六夜山)
2月2日 現地小集会 (独姑山)
2月5日 講演会「幻の山と開けゆくブータン」
—吉永英明・村木秀男— (本会)
2月8日 支部長会議 (本会)
2月14日 会員懇談会「車窓の山旅—中央線から
見える山」—山村正光— (本会)
2月15日 第17回「山岳図書を語る夕」
—白旗史朗— (本会)
3月8,9日 現地小集会 (愛鷹山)
3月10日 講演とスライド「ニュージーランドの近況」
—佐々保雄— (本会)
3月13日 第14回「山岳史懇談会」マナスル登頂
—今西寿雄他— (本会)
3月15日 第12回新入会員オリエンテーション
(本会)
- (2) 研 究 会
6月8,9日 第5回日本登山医学シンポジウム
(上高地・西糸屋)
6月22,23日 高山植物探索山行 (志賀高原)

- 聖マリアンナ医大 5月31日～6月1日
 ○高所登山シンポジウム 場所・日時とも未定
 ○シンポジウム「登山と高層気象」 本会 未定
 ○シンポジウム「ヒマラヤの生態系(Ⅲ)」 未定 11月
 ○セミナーの実施

(イ) 展 覧 会

- この一本展(山岳図書、文献類の展示) 2月

(ロ) 講 演 会

- 登山、山岳の科学研究に関する講演会(氷河研究他) 本会、その他 未定
 ○登山医学に関する講演会(凍傷、高所順応) 本会 11月、2月

- 内外登山家による講演会、映画会 本会、その他 未定
 ○海外の山に関する講演会、報告会 本会、その他

2. 登山施設の改善、その他登山のための適切な事業

- 上高地山岳研究所開所 4月～10月
 ○登山医学シンポジウム記録の編集、発刊
 ○山岳と登山に関する科学文献整理
 ○山に関する貴重なフィルム、スライド、テープ、アルバム等の複製、収集を行う。

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

- 夏山診療所開設(槍ヶ岳他) 7月～8月
 ○技術講習会の開催(冬山、山登り、スキー等) 現地4回
 ○雪または氷上訓練 2月または3月
 ○大学山岳部指導者会議の開催
 ○冬期の遭難、登攀技術問題についてのシンポジウム 10月～11月

4. 自然保護活動の推進

- 自然保護に関する講演会(登山と野生動物保護)
 ○自然観察山行
 ○自然環境保全及び破壊の現地視察
 ○自然保護全国集会
 ○自然保護活動のための研修会
 ○フィールドマナーノートⅡの作成

5. 海外登山の企画および実施

- 中国崑崙山脈他への登山 7月～9月
 ○ポーランド山岳会との交流登山 5月
 ○マナスル登山 30周年記念登山 10月～11月
 ○アメリカ山岳会との交流登山

6. 機関誌などの刊行

- 「山岳」第81号(1986年)発行
 ○会報「山」第490号～第501号発行
 ○「山日記」1986年夏～1987年夏版編集発行

7. 国内および国外山岳団体との連絡、情報交換

- 国内関係団体(日山協、都岳連、その他)との密接な連絡
 ○日本ネパール協会の事業に対する協力
 ○海外登山団体との機関誌および情報の交換

8. その他、目的を達成するために必要な事業

- 山岳図書室の拡充を図る
 ○国際アルピニスト大会(8月、松本市)後援
 ○その他、目的を達成するために必要な事業を行う

編集後記 今回は総会関係記事が多かったため、他の記事も掲載できるように増ページしました。(岡)

- ・登山に関する図書、フィルム、スライド類の充実と目録作成

- ・女性登山史のための資料作成

- ・集会、青年懇談会、婦人懇談会、高所登山、遭難対策、指導、図書、フィルム、海外連絡、自然保護、科学研究、医療の各委員会による研究会の開催

- ・「登山医学」第4巻1号 発行

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

- ・各大学医学部山岳部による夏山診療所の開設(槍ヶ岳、五色沼、唐松岳、三俣山荘、白馬岳、合戦小屋、立山、尾瀬)

4. 自然保護活動の推進

- ・環境庁との連絡を密にし、国立公園地域山岳地の自然保護に協力

- ・祖母・傾山系原生林保護と伐採計画見直しの要望書提出

- 5月18,19日 現地視察 (武甲山)

- 6月15,16日 プナ・シンポジウム(自然保護協会主催)に参加 (秋田市文化会館)

- 9月8日 現地視察(高尾山地域の首都圏中央連絡道路計画他)

- 10月19,20日 第11回自然保護全国集会に参加(鈴鹿・湯の山温泉、県福祉休養ホーム)

- 11月17日 自然保護視察会 (湖南、高麗山)

- ・フィールド・マナー・ノート2の作成、原稿まとめ

- ・自然保護に関する要望、現地視察、情報収集

5. 海外登山の企画及び海外との交流

- ・日本山岳会 80周年記念中国登山(7月～8月)

- 1) 中国・甘肅省、祁連山脈・祁連山の踏査および登頂

- 2) 中国・青海省、崑崙山脈・カカサイジモンカ山の踏査および登頂

- 3) 中国・青海省、黄河源流トレッキング

- ・アメリカ山岳会、ポーランド山岳会との交流登山企画

6. 機関誌等の発行

- ・「山岳」第80号(1985年号)発行

- ・会報「山」478～489号の発行

7. 目的を同じくする外国山岳会等との情報交換

- ・30ヶ国60団体との情報交換

- ・日中合同登山推進のための中国団体関係者との情報交換

昭和61年度 事業計画(案)

1. 登山の指導奨励に必要な集会、研究会、講習会、展覧会等の開催

(イ) 集 会

- 小集会(報告会、講習会、シンポジウム、山行)

本会、その他 約40回

- 東北シンポジウム'86 湯殿山 5月24日～25日

- ウエストン祭 上高地 6月1日

- 岩登り講習会 小川山 6月

- 山岳図書交換会 本会 10月

- マラソン大会 皇居周辺 11月

- 地方ブロック懇談会 九州 11月

- 年次晩餐会 私学会館 12月6日

- 山岳図書を語る夕べ 本会 2月

- 山岳史懇談会 本会 3月

- 来日外国登山家との交歓会 本会、その他 未定

- フィルム映写会(海外、国内) 本会 未定

- 新入会員オリエンテーション 本会 3月

(ロ) 研 究 会

- 登山医学シンポジウム

昭和六十一年六月二十日発行
 102 東京都千代田区四番町五十一番
 サンビュウハイツ四番町
 発行所 法人団 日本山岳会
 編集代表 岡 今 西 寿 雄
 電話東京(261) 四四三三
 振替口座 東京三 四八二九番
 東京都港区六本木三ノ一 三〇
 印刷所 株式会社 技報堂